

# 高等学校 2 年生 保健体育科学習指導案

令和 6 年 11 月 21 日

中学校・高等学校（ 2 ）年 30 名

## 1 単元名 **大単元**「安全な社会社会」 **小単元**（事故の現状と発生要因）

### 2 単元について

個人及び社会生活において、様々な事故や災害が発生している。安全な社会を形成するには、事故等の防止に加え、発生に伴う傷害などを軽減することが必要である。そのためには、事故等の発生には人的要因及び環境要因が関わることを踏まえ、個人の取組に加えて社会的な取組が求められることを理解するとともに、危険の予備やその回避の方法を考えることが出来るようにする必要がある。

このため本内容は、様々な事故等の発生には人的要因と環境要因が関わること、交通事故などの事故の防止には、周囲の環境などの把握や適切な行動が必要であることも、安全な社会の形成には個人の安全に関する資質の形成、環境の整備、地域の連携などが必要であること、また、個人が心肺蘇生法を含む、応急手当の技能を身に付けることに加え、社会における救急体制の整備を進める必要があることなどを中心に構成している。

### 3 単元の目標

知識・技能	安全な社会において、事故の防止に加え、発生に伴う傷害などを軽減すること、またそのための社会的な取り組み
思考力・判断力・表現力等	安全な社会生活について危険の予測やその回避の方法などの課題
学びに向かう力・人間性	安全な社会生活における健康の保持増進に関する課題の解決に役立つ環境と食品の危険、労働と健康に関する活動や対策

### 4 生徒の実態と指導観

授業時間は落ち着いた雰囲気であり、学習への、取り組みは意欲的で、積極的に発言してくれる生徒が多い。教科書のための説明だけだと飽きてしまい、居眠りをする生徒が出てきてしまう可能性がある。豆知識など教科書に載っていない内容を取り入れるようにする。また、事故が起こった際にどのように障害を軽減するのかなどを、グループワークを通じて深く考えるきっかけを作る。

## 5 単元及び学習活動に即した評価規準

健康安全への知識・技能	健康安全についての思考力・判断力・表現力等	健康・安全について、主体的に学習する態度
<p>① 安全な環境づくりには、環境の整備とそれの応じた個人の取り組みが必要であること。また、交通事故を防止するには、車両の犠牲の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が関わること。交通事故には補償をはじめとした責任が生じることを理解している。</p> <p>② 適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があること。また、応急手当は傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることを理解しているとともに、心肺蘇生法などの応急手当を適切に行う技能を身につけている。</p>	<p>① 安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。</p>	<p>① 安全な社会生活についての学習に主体的に取り組もうとしている。</p>

## 6 指導と評価の計画

時間	主な学習内容	知識	思・判・表	学び
1	事故の現状と発生要因 ・事故による傷害の実態 ・事故の発生場面 ・事故に関する情報体制	①		
2	安全な社会の形成 ・個人の危険予測と危険の回避 ・自助と共助 ・環境整備による安全の確保 ・すべての人々の安全のために			
3	交通における安全 ・個人による交通事故防止 ・交通環境対策と安全な自動車 ・交通事故の責任 ・交通事故の補償			
	応急手当の意義とその基本			

4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応急手当とは</li> <li>・事故や災害に対応できる社会づくり</li> <li>・安全の確認</li> <li>・反応の確認</li> <li>・呼吸の観察</li> </ul>			
5	日常的な応急手当 <ul style="list-style-type: none"> <li>・けがの状態の確認</li> <li>・けがの状態に応じた手当</li> </ul>			
6	心肺蘇生法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・胸骨圧迫</li> <li>・AEDによる電気ショック</li> </ul>			
7				
8				

## 7 本時の展開

### ① 本時の目標

事故の実態と被害を理解し、人的要因と環境要因を説明できるようにする。

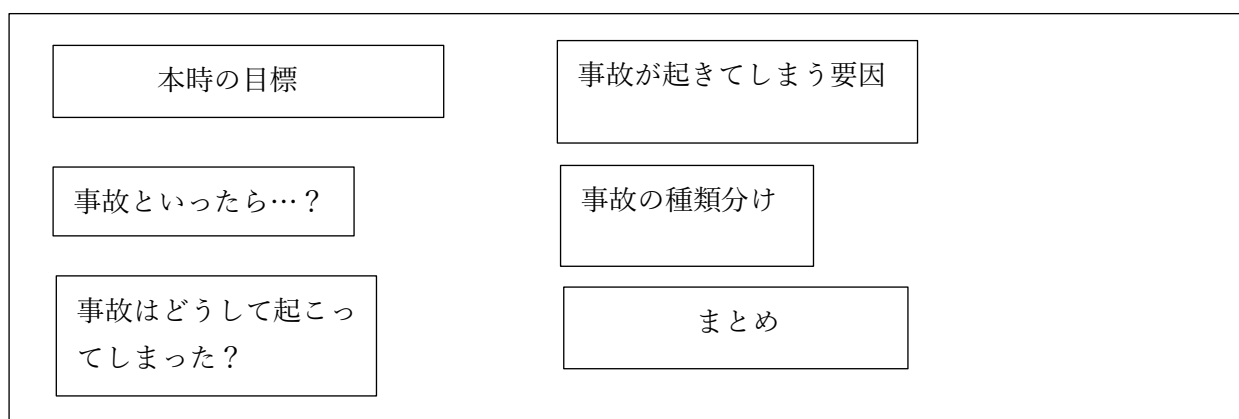
### ② 展開

段階	学習活動【 学習内容 】	指導上の留意点 ◇評価
導入 10	1. 事故に関する簡単なクイズを実施する。事故と言ったら何が思い浮かぶか？  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">             予想される生徒の反応：交通事故 お風呂での事故 エスカレーターでの巻き込み事故           </div> 問1：交通事故が最も多い時間帯は？ 問2：過去、自動車で歩行者と衝突した事故で、最高どのくらいの賠償金の支払いが命じられたのでしょうか？ 問3：交通事故が多い曜日はいつでしょう？	○事故に関する簡単なクイズを実施し、興味を引く。事故を4種類に分類する。          ○選択肢を3つ程度用意しておき、個人で考え、挙手で参加させる。   ○また、回答と少し解説をして授業の導入をしていく。 ○机間指導をする。   ○最近ニュースで見た事故、自分が思い浮かんだ事故を空いているスペースに書かせる。

		○不慮の事故の種類による死亡割合 p, 60 資料 1 を使用し、それぞれの年代で多い不慮の事故の種類、地震・津波や豪雨などによる大きな災害が起こると、一度に甚大な人的被害が発生することを説明する。
展開 30 分	2.事故についての説明	
	<div>発問 1 : どうしたら事故が起こるのだろうか。</div> <div> <p>予想される生徒の反応：周りが見えていなかった、車のスピードが速かった。</p> </div>	<div> <p>○3つの要因を理解し、事故を分析する</p> <p>○解決策を様々な視点から考えてみる</p> <p>○交通事故だけでなく、自然災害やスポーツ時の事故など様々な場面での事故の説明をする。</p> <p>(まんべんなく)</p> <p>○それぞれの事故がどの要因に当てはまるのか確認を全員で行う。</p> </div>
	3.事故の要因の 3 つ紹介	
	<div>発問 2 : 事故を種類別にすると主な事故要因はなんだろうか。</div> <div> <p>予想される生徒の反応：人がかかりあるから、人的要因</p> </div>	<div> <p>○どうしてその選択を選んだのか理由を添えるよう促す。</p> <p>○きちんとワークシートに自分の意見を書いているか、話し合いの際は自分の意見を伝えられているか机間指導を行う。その時に見るだけでなくコミュニケーションをとって生徒とのかかわりを増やす。</p> </div>
	4.事故が起こらないようにするにはどうしたらいいのか	
	5.豆知識話	○豆知識として、あおり運転についての説明 車間距離を縮めすぎたり、交通を妨害する行為
	6.事故分析（事故の要因、発生時や発生後の例） p,61 コラム	急にブレーキを踏んだり、車線変更するとき一緒にになって車線変更したりする。運転免許を取ったら気を付けるような声掛けも忘れない。
	7.スポーツ時に起こりやすい障害の例についての説明 P,176 資料①	○スポーツ時の事故で種目ごとにけがしやすい部位や種類を説明し理解を深めさせる。 ○授業を行う季節にありがちな事故を調べて注意を促し事故は身近なものとして認識させる。

		<p>◇A 評価：人的要因と環境要因について理解し、自分の意見を積極的に述べ、事故はどのようにして関連しているのかについて理解し具体的な意見を書き出している。</p> <p>◇C 評価：事故の発生には人的要因と環境要因が関連していることについての例を挙げて説明できていない。</p> <p>◇C 評価の生徒への手立て</p> <p>生徒へ自分の生活を振り返り、どのような場面で事故が起こりうるのかを考えてもらうように個別指導を行う。</p>
<b>ま と め</b> <b>10 分</b>	<p>6.本時で学んだことを穴埋めして、それが終わったら自分で考えたこと、みんなの発表の意見を聞いて今日学んだこと、自分がこれからどうしていけばいいのか等を学習シートに書く。</p>	<p>○学習シートに書くよう促す。</p> <p>○全員が書けているか机間指導をする。</p> <p>○事故の要因は人的要因と環境要因があることを黒板を使用しポイントを付ける。</p> <p>○自分たちができることを意識しながら生活できるように声掛けをする。</p> <p>○答え合わせをみんなでする。</p> <p>○授業の終わりに本時の目標を振り返り内容理解できているかを再確認</p>

## 8 板書計画



## 9 資料

高校の保健体育の教科書 p,60, 61 p,176

提示物 1

提示物 2

提示物 3